



みやぎの明治村 とよま資料館だより

発行/㈱とよま振興公社
〒987-0702
宮城県登米市登米町寺池桜小路2
Tel: 0220-52-5566
Fax: 0220-52-2630
HP <http://toyoma.co.jp>



《 水沢県庁記念館編 》 第1号



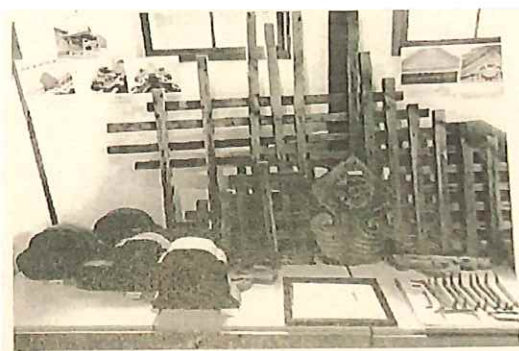
// 序章 「水沢県庁記念館」の誕生 //

明治元年戊辰戦争後、仙台藩は領地を没収され廃藩置県が布告された後、宮城県北東部と岩手県南部を管轄する地域を「水沢県」と称した時期がありました。

明治5年水沢県庁舎として落成し明治8年まで使用されました。建物の玄関は式台の形を整え本棟は洋風な木造平屋建てとなっています。平成2年修復工事をし、水沢県庁記念館として現在に至っています。



//企画展示「三代にわたる宮城県庁舎」//
現在仙台市勾当台の地に、杜と一体化し威風堂々とした県庁が建っています。建物は三代にわたり建て替えられ県政の府として引き継がれてきました。明治初め戊辰戦争後幾多の変遷を経て統合宮城県が成立しました。



//明治5年建設 水沢県庁舎建築部材//
建築部材の名称は・・・

- ①鬼瓦: 屋根の棟の端に置く瓦
- ②州浜鬼瓦: 州浜をかたどった台
- ③蕪懸魚: 鰯に似た建築装飾版
- ④木連格子: 屋根の切妻破風の下に取り付ける

とよまの文化財 ひとくちメモ

【旧登米高等尋常小学校】

校舎は、明治21年(1888)10月竣工以来132年幾多の風雪、地震にも耐え微動だにしないという堅牢さです。

昭和56年6月、国の指定重要文化財(建造物)に指定されました。



裏面もご覧ください



登米伊達家領 二ツ屋の喚山神社(登米市豊里町二ツ屋)



十一代宗充が二ツ屋の会所にて御読まれた和歌



登米伊達家代々の事績

11代 宗充 (1787~1843)

宗充は、9代村吉の八男として天明7年(1787)に生まれました。兄の10代村幸の死去により享和3年(1803)襲封しました。後に宗充は、仙台藩12代藩主となった嫡子斉邦の相談役として藩政を補佐しました。宗充の治世40年は天明・天保の飢饉に悩まされた時代でした。北上川や迫川の堤防を修築して水害を防ぐとともに荒果でいた田畑の再開発や原野の開拓、さらに杉の植林、桑の植栽をするなどして産業を興しました。そして天保の飢饉の時、身一つで南部藩などから逃れてきた流民を快く受け入れ、二ツ屋(登米市豊里町)に入植させ散田足輕として登用して一人の餓死者も出さず開田を成功に導きました。宗充死去後二ツ屋の人たちは、その恩に報いるため宗充を祀る喚山神社を建立して今も地域の人たちの尊崇を受けています。

※喚山神社は、宗充の法名「喚山」に因んだ名称となっています。

文化八年(一八二二)八月十一日宗充が在任中村(ツツ屋)に
御読まれた和歌
かきからす
浅からず 心にかげし
いさか
熱しも 見えて
にまう
暇ふ 民の家々
月に日に 民の家々
くはらば 富すわざをも
からば 富すわざをも
しひて 頼まん
宗充

(和歌大意)
心とめてから、走向が懸ていはい、
手柄をたて、賑わう民の家々がみえきた。
日増しに民の家が増えくれれば、財力さえも
強いて頼りしない。

水沢県庁記念館から見た城下の風景

こちらの風景写真は、記念館北側から入口冠木門と前の道路(江戸前期・寺池城下 前小路と呼ばれていた)南側へと続いています。手前の記念館の敷地は、登米伊達家の家中屋敷割図(元禄図)貞享(1687)年間ごろから作製が始められた絵図によると宿老と言われ、家老に相当する上級武士の御屋敷があったとされています。



イベント情報

7/11(土)~10/4(日)

登米懐古館 収蔵資料展
PART 2 きりぎりし武士の魂

次号の告知

とよま資料館だより「第二号
〈教育資料館編〉です。

◎国の指定重要文化財
旧登米高等尋常小学校・校舎の魅力
をご紹介します。

◎代々引き継がれてきた登米伊達
家の史料をご紹介します

編集後記

とよま資料館だより第一号をお届けします。
始めてのたよりは「水沢県庁記念館」です。
明治の建物が残るとよまで、とりわけ年代を
感じさせるのが水沢県庁舎です。今後
とよまの歴史資料をご紹介します。今後
込んだ魅力を伝えたいと思います。
「継続は力なり」この言葉を胸に編集に
努めます。皆様よろしくお願いたします。

佐藤(尚)



“みやぎの明治村” SNS 随時更新中です!

チェックしてみてください。